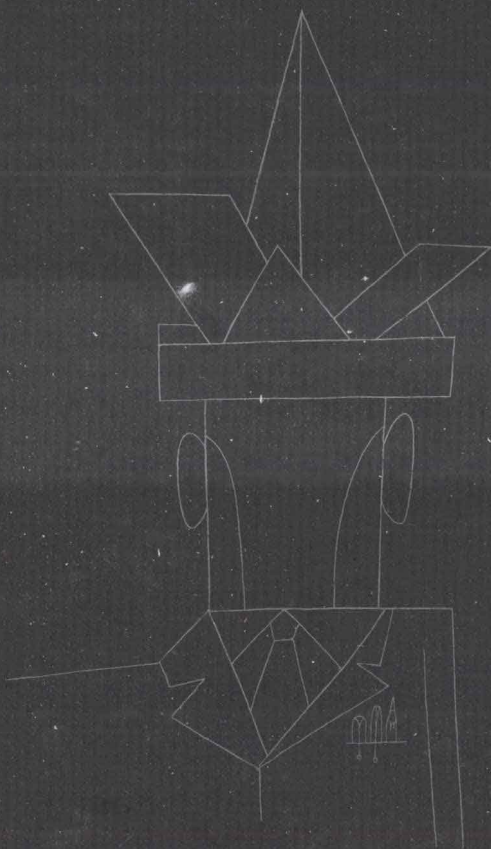


# もとの もくあみ

藤島泰輔



# もとのもくあみ

藤島泰輔



白馬出版

## ■著者紹介

### 藤島 泰輔（ふじしま・たいすけ）

昭和8年1月東京に生る。学習院、中、高等科を経て、昭和31年学習院大学政治学科卒。同年「孤独の人」で文壇にデビュー、作家生活に入る。

外国旅行40数回、訪問国75カ国。昭和45年エベレスト・スキー探険隊総本部長としてネパールに入る。昭和46年9月、アメリカ合衆国フロリダ州に移り住み、以後、日米半々の生活を送っている。

主たる著書「忠誠登録」「日本の上流社会」「白い日本人」「アフリカ紀行」「ヘソまがり太平記」他多数。

日本ペンクラブ理事、日本文芸家協会、日本文化会議会員。現住所、港区六本木5-10-33

## もとのもくあみ

昭和四十八年三月二十五日 第一刷発行

著者 藤島泰輔

発行者 川村洋輝

発行所 白馬出版株式会社

東京都千代田区麹町四一七（逢阪ビル）

郵便番号 一〇二一

電話東京（二六五）二九四八番

振替東京一五四八七三番

印刷所 栄進印刷社

製本所 丸山製本

定価 六五〇円

落丁、乱丁本はおとりかえいたしません。

検印廃止

© 1973 Taisuke Fujishima  
0095-73031-6981

もとのもくあみ



## 目次

すたこらさっさ

すたこらさっさ

「コンケイ」は大物

マスコミの帝王

文士劇

講演旅行

友人

初恋

悪女

女ごころ

友人

エロチシズム

136

124

112

103

92

88

73

59

31

8

うなぎ

半人前

恋の痛み

149 146 142

カプリ島にて

世界の母なる神

ああ香港

陳さん

チクチク

プラチナ・ブロンド

パリという街

日曜はダメよ

クリスマス

大晦日

カプリ島にて

プノンペンの姑娘

200 191 188 182 179 176 172 169 163 157 154

わがヒゲ

天ぶら

銀座

わがヒゲ

げても

軍歌

未知の世界

腐れノ  
ツケモノ

昼と夜

250 240 225 219 216 210 207 204



装幀／クロイワ・カズ

すたごらあしあ

すたこらさっさ

二晩続けて茂一さんと飲んだら、三日目の朝に頭がボーッとなった。

御存知、紀伊国屋の田辺茂一さんで、この人と飲むと大抵こうなる。まったく凄まじいハシゴ酒である。

田辺さんの長男と私とが同級生だから、いってみれば父子みたいなもので、こちらから「今晚飲みませんか？」と声をかけるのも憚られるので、待ち合わせて飲んだということはない。パーティーの流れというケースが最も多い。

だから、会わないときは一カ月でも会わない。

それが、最近のあるとき、二晩続いたのである。

最初の日は、昼間、紀伊国屋ホールで講演会があったので、終ってから社長室へ遊びに行つた。

昼間は別人である。コワイ顔をしていて、何かいっても「ウン、ウン」としか答えない。昼と

夜との二重人格だと評した友人もいる。

社長室と同じ階の会員制のサロンに行つて水割りを御馳走になる。青い横縞のスポーツシャツにレンガ色のカーディガンをお召しになつてゐる。

「イキなものですナ」

「うふっ。いや……」

これが返事である。

「あなたの、踊り子のこと書いた小説読みましたよ。モデルあるの？」

「ええ、何となく……」

本屋の社長だからというのでなく、田辺さんは、交友関係にある文士の毎月の小説を実にマメに読んでゐる。そういう意味でもコワイ人である。酔つてゐるように見えるときでも、ちらりと今月の小説についてひやかされたりする。

「田辺さんの小説で、あの好きな歌手というのは誰ですか」

「うふっ。いや……」

向うの方で、安部公房さんが仕事の打ち合わせをしている。

「安部さんは自分のペースで仕事をしていますね」

と、田辺さんはぼつりといった。

こういう具合で、会話はポツン、ポツンと途切れる。

何年か前に、野坂昭如さんが関西のテレビ局で午後の番組を持っていて、田辺さんと私とで東京から出演に行ったことがある。

そのときの田辺さんの喋らなかつたことといったらひどいもので、この「うふっ、いや……」が続き、私もどちらかというと昼間はダメな方だから、結局、司会者の野坂さんひとりがのべつに喋って番組が終った。一体、何をしに関西まで行つたのだか訳がわからなくなつたが、これは酒を用意していなかったテレビ局の手落ちである。

「今日の予定は？」

「夜、ラジオの録音が二本あるのですが、そのあと多分銀座に出ます。後の一本が戸川幸夫さんと一緒ですから……」

「そう、私も六時から『浜作』で会があるから、ま、どこかで……」  
背を丸めて、社長室へ続く廊下を去っていった。

その夜、録音が少し長引いて、十時半になつた。

戸川幸夫さんと日航ホテルの前で車を降りて「H」というバーに行こうと歩き出したら、一本目の角で二人連れのホステスに呼びとめられた。

「田辺先生がお待ち兼ねです」

「どこで？ きみたち、どこ？」

「私たち『S』ですけど、いま『M』まで先生をお送りして来たんです。センチを探してお

られました」

何だかよくワケがわからないが、ともかく茂一さんが「M」にいることはたしかなので、私は急拠方向を転換して「M」へ向かった。

※

クラブ「M」に入って行くと、奥の方に茂一さんが、一人でホステスに取り囲まれて坐っていた。

その夜は他の客も珍らしく知り合いばかりで「やあ、やあ……」と方々へ頭を下げる。十一時近くで、こちらはシラフだが、相手は大体出来上っている。

田辺さんも、かなりの出来で、もう昼間の「うふっ、いや……」はどこかへ飛んでしまっている。

「二時間も探したんだぞ」

「申し訳ありません。録音が長引いて……」

「こんな時間までかせぐのかア。生活がかかっているなア。ウォーツ」

このウォーツというのは、笑いとも威嚇ともつかぬ田辺式咆哮であり、銀座では誰知らぬ者でもない有名なウォーツである。

「さっき聞いた話だが……」

と茂一さんは真面目な顔をした。

「この頃、パリでは死んだ人間の脳味噌を売っているんだって」

「脳味噌……!?!」

「そう、生きているときの職業別に、ね。それで、値段がついていてね、科学者が五千フランで、政治家が一万フランだそうだ」

「……!?!」

「ヘンだろ？ みんなヘンだと思うんだ。そこである人が店主に何故政治家の方が高いんだと訊ねた。そうしたら『使ってないから』と答えたんだそうだ。ウォーツ」

この話には笑った。

仕方がないから、私も対抗することにする。

「同じパリの話ですがね」

「よう、インターナショナル。激動する一九七〇年代……」

インターナショナルは田辺さんが私をひやかすときの言葉であり、激動するうんぬんは昼間紀伊国屋ホールで私の行った講演の副題である。そういう細かいことをすぐ覚えるのが田辺さんの意地の悪さである。

「日本からセックスの大家がフランスに招かれて行ったそうです」

「おれみたいなものだな。ウォーツ」

「日本は四十八手だが、フランスにも六十何手とかある。そこで、日本の性交体位の専門家を

招いて、両国の違いを説明しようとしたわけです」

「……」

「数百人のフランス人が集まったところで、日本人の専門家が口火を切った。第一番、女性が仰向けに寝て肢を広げ、男性がそれに重なる形で行為を行う。これを日本では正常位と呼ぶ、といったら、並みいるフランス人が声を揃えて『それは、はじめて聞いた』と叫んだそうです」

「ウォーッ」

なにしろ陽気な酒である。いい憎いこともポンポンいう。

新人のホステスが傍に来る。

「よオ、田舎新聞」

こういうのは解説が必要で、長くつきあっている友人でないとわからない。地方紙の広告に応募して出て来たのだろうというイヤミである。相手はわけがわからないから一向に傷つかない。ツキ出シが出て来た。カマボコが四切れ皿の上のっている。

「客が四人で、カマボコが四切れ、この余裕のなさ、この経済性、ウォーッ」

一瞬のうちに暗がりの中でカマボコの数を勘定したのである。

「そんなこと、ごらんになっているのね。イジワル」

と、マダムが笑い転げる。こんなことをいいながら、このマダムが田辺さんの一番のゴヒイキである。



「じゃ『H』へ行きますか」

その瞬間、田辺さんの顔が真面目になる。酔っているようで酔っていない人なのである。入り口で馴れないホステスが田辺さんの荷物を出すのを忘れた。

「ほら、オ帽子！　ほら、オカバン！」

と、雷が落ちる。ホステス教育に関してはやかましい人である。

※

すたこらさっさ、というのとは田辺茂一さんの好きな文句である。誰かが作詩作曲した「もいちのすたこらさっさ」という歌まである。

茂一さんが、ずんぐりむっくりした身体を更に丸めて銀座の裏通りをすたこらさっさと歩く姿には独特の味がある。

帽子をかぶっているのはともかく、いつも大きな鞆をぶらさげている。この中には眼鏡やら、書類やら、折詰やら、いろんなものが入っているのだが、何といても圧巻は煙草である。十本入りのピースの箱が、おそらくは二十個ぐらい入っているのだろう。酒を飲みながら、これをたてつけに吸う。いわゆるチェーン・スモーカーである。

以前は、銀座のある店に田辺さんの『お鞆係』がいて、ハシゴが終った店までカバンを届けに来たのだが、この頃はその女性とケンカをしたのだから、バーからバーへ移動するときは、それぞれの店の女性がリレー式に運ぶようになった。